

### ◆短角種 子牛の「ガンベ」は早期治療を

放牧していると、夏ごろから子牛に俗にいうガンベ（真菌症、白癬）が集団発生します。早期に治療しておかないと子牛市場で損をします。

原因菌は「カビ」で感染力が強く、たてご（頭絡、面綱、モクシ）からも感染しますから、一度使ったものは消耗品と考えて、どんどん焼き捨ててください。治療には、油剤を広範囲に塗ることです。

イボ（乳嘴種）は、とくに黒毛和種、ホルスタイン種に多いのですが、これも急速に増殖し、嫌われる皮膚病のひとつです。初期には飲み薬、塗り薬で治療しますが、大きくたくさんできてしまったら、取ってしまうしかありません。この場合、ゴム輪や糸で縛るのではなく、手で思いっきりむしり取ってください。この方が早く治りますし、牛にも長い間、苦痛を与えません。ただ顔面や耳の内側にできたものは、あまり熱心にとらないほうがいいでしょう。